

# 大悪党少年の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

## ■アンケート調査概要

調査目的	大悪党少年の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	大悪党少年を読んだことのある10代～50代の男女9名
調査期間	2025年4月7日～2025年4月8日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	<a href="https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/daia-kutousyounen/">https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/daia-kutousyounen/</a>

## ■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えてください。

Q2: 大悪党少年を実際に読んだ感想を教えてください。

Q1: 年代と性別を教えてください。

10代男性	1人
10代女性	0人
20代男性	1人
20代女性	0人
30代男性	4人
30代女性	1人
40代男性	0人
40代女性	2人
50代男性	0人
50代女性	0人

## Q2: 大悪党少年の面白いところやいいところなどの感想を教えてください。

まず、悪のカリスマ、と呼ばれた不良の主人公が、ある事件をきっかけに更生しようとする、という奇抜で珍しい設定が面白いです。少年漫画のような真っ直ぐな成長ではなく、主人公が自分の中の狂気と優しさのギャップに苦しんだりするシーンが面白い。シンプルなアクションも派手で見応えがある。打ち切りになってしまったのは残念だけど、最新話まで読んでから、終わり方を妄想するのも面白いです。

アニメではありますが、藤近小梅先生の作品である『好きな子がメガネを忘れた』を観ていたのもとてもはやりやすかったです。テンポがとても良くて、気づけばスラスラと最後まで読んでしまいました。最初は「ヒロアカ」のヴィラン側の物語のような雰囲気を感じましたが、読み進めるうちに主人公の“いい奴感”がじわじわと伝わってきて、思わずニヤけてしまう場面も。特にヒロインが花を受け取った後に見せた、照れたような笑顔が本当に可愛くて印象に残っています。悪党という設定でありながら、温かみのあるキャラたちと緻密な感情描写が見事に融合していて、続きがとても楽しみな作品です。

世界の全てがくだらない。タイトルも含めてまさに中二病真ただ中の中学生・高校生あたりに喜ばれそうなストーリーです。ですが、大人である自分も確かにきれいごとのために戦っているヒーローってのはうさんくささを感じる。小悪党ごときに終わりにたくない。やっぱり大悪党は憧れですね。なんとなく分かる。だから中学生から大人まで楽しめる作品です。

主人公がヒーローに憧れる作品は多くあれど、悪党に憧れる作品は珍しいです。この作品の主人公である世高エータも、悪党に憧れを抱く孤独な少年でした。読む前は『僕のヒーローアカデミア』のような話かと思いましたが、かなり毛色の違う内容でした。何の力も持たず周囲から浮いていた少年が、超常能力を手にして相棒ゴートと成り上がっていく様子はとても熱くなれます。ダークヒーローものが好きな人にオススメです。

まずは大悪党と少年という異質な存在同士を掛け合わせた不思議なタイトルに心惹かれます。クラスではリア充とは言えない少年があこがれたのはまさかの大悪党。なんで、と思いますが確かにどうせなら大悪党かも。ヒーローよりも魅力的。可愛らしく親しみやすいイラストもあり、次第に入り込んでいくことのできるストーリーです。

主人公の世高エータはひねくれた少年で、厨二病感が拭えないキャラクターですが、その悲しい過去を考えると致し方ないと思う部分もあります。シリアスな面がありつつも、ちょっと抜けた主人公のおかげで緩やかなストーリーでありながら、ヒーローとは？正義とは？といった哲学的な内容もあり、非常に読み応えのある作品です。

はじめはヒーローに対して穿った見方をする少年の物語かな？と思いました。一応下僕という名の存在を持つものの、特に大した力を持たない少年が主人公なのかと思いました。

まさか本当に力を持っているとは思わなかったのも、いい意味で裏切られたように感じました。このままだと少し想像力の高い少年が苦しい学校生活を送るのかな？と思っていました。

主人公が少し穿った正確になってしまった理由や、周囲の人との関係も最初の方でわかるシーンがありました。まだあまりはっきりとは描かれていないので、どんな過去があるのかわかりませんが、だんだん明らかになっていく彼の過去も気になります。

かっこいいというより、親しみあるリアルなヒーロー感があって好きです。

この作品は、周りや自分自身に鬱憤を抱えた少年の物語であり、ヴィランとして成長していく様子も見ることが出るので面白いです。正義の味方となって世界を変えるのではなく、悪役になって世界を変えようとするのは主人公らしくなくて、そこが斬新で良いなと思いました。考えることは壮大だけど、計画にまだ子どもっぽさがあったりと、主人公の可愛い部分にほっこりできる場面もあって良かったです。

タイトルからもわかるように主人公は悪党を目指しているのですが、少年らしい可愛げが残っていて、読んでいくほどに愛着が湧いてくるキャラクターです。そしてこの漫画には個性豊かなヒーロー達も出てくるので、彼らの活躍を見ているのも楽しいです。そんなヒーロー達との出会いを経たりして、世界に不満を抱えた主人公の心情に変化が現れていくのも注目ポイントです。

**漫画全巻の部屋**

by (株)グリュックス